



2020年8月22日  
大王製紙株式会社

## 大人用紙おむつの #常識をはきかえよう エリエール アテントの想いを草薙剛さんが TVCM で熱演

エリエールブランドを展開する大王製紙株式会社（住所：東京都千代田区）は、8月4日（火）に大人用紙おむつブランド「アテント」の発売40周年記念を期して、介護と社会をとりまく環境の変化に対する想いを宣言しました。この想いを介護・看護従事者や当事者だけではなく、全世代の方々に「自分ごと」として捉えてもらうために8月22日（土）、23日（日）の2日間、日本テレビ系列で放送される「24時間テレビ43『愛は地球を救う』」からタレントの草薙剛さんを起用したTVCMを放映し、「#常識をはきかえよう」をテーマにブランドキャンペーンを開始します。



新TVCMタレントの草薙さん



キャンペーンシンボルマーク

### 1. 背景

日本は2025年問題、2040年問題と世界に類をみないスピードで超高齢社会に進んでいます。あと3年後には、日本の人口の半数が50歳以上になる予測もあり、若い世代で高齢者を支える仕組みの維持が難しくなることが予見され、その足音は着実に迫っています。しかし誰もが「今の自分とは関係ない。まだずいぶん先のこと」として漠然と捉えられているのが現状です。

こうした中、国は既に、地域共生社会の理念とその実現手段のひとつとして地域包括ケアネットワークの構築を提言し、各種法整備を進めています。

アテントは、この地域共生社会の理念に共感し、今後世代を超えて大切な問題となる「介護の社会化」に取り組みます。そして、お客様一人ひとりにとって、自分自身の問題だと捉えてもらいたいと願っています。そのために、大人用紙おむつを下着の総称である「パンツ」と呼び、「かくさないパンツ」をコミュニケーションワードとして、おむつを恥ずかしいものとして隠すのではなく、オープンにしてみんなで考えていけるポジティブなものに変えていきたいと考えています。

## 2. アテントのマニフェスト (8月4日(火)発信)

かくさない  
パンツになろう。

オムツからパンツへ。

年には50歳以上の人が50%を超えるこの国で、誰もが元気で楽しく過ごせる時間を少しでも長くするために。

今年40周年を迎えるアテントは、大人でも快適に美しくはけるオムツの開発を続けてきました。素材から、薄さ、動きやすさ、臭いの吸収、デザインまでこだわって。

そう、研究はご想像どおり、地道です。「これぞ!」という商品が発売できるまでには何年もかかります。それでも頑張れるのは「ありがとう」「助かった」というお客さまの声のおかげ。

だからこそ私たちはオムツについて包みかくさず、もっとあなたと話したい。体にも心にもよりそえる大人のパンツとして、進化し続けたい。介護にも、共生社会にも向き合って、みんなと本音で考えていきたい。そう、パンツには未来のいろんなヒントがかくされている気がするんです。

今までの常識をはきかえて、人生100年時代に一緒に出かけましょう。



## 3. 草薨剛さん起用理由

幅広い世代の方に知られ、愛されている草薨さんは、ご自身本来の振る舞いや眼差しから、飾らないやさしさ、誠実さを持っています。しかも、そのやさしさの裏に固い芯を持たれており、自分のことばで自分の考えを語る事ができる方です。

草薨さんの人柄は、これからアテントが伝えていきたい想いに合致していると考えます。

その草薨さんが TVCM を通してテレビの前の人に語りかけ、問題を提起し、考えてもらうことで、まずは、生活者に自分と関係があることと捉えてもらうことを狙います。

## 4. 24 時間テレビから TVCM を放映

草薨さんを起用した TVCM は 8 月 22 日 (土)、23 日 (日) の 2 日間、日本テレビ系列で放送される「24 時間テレビ 43『愛は地球を救う』」から放映します。24 時間テレビは、福祉・環境・災害復興の三本柱を援助の対象に掲げており、老若男女問わず視聴者自身がこれらの問題に向き合うことができます。「おむつのことを恥ずかしいものとして隠さずオープンにしてみんなで考えていきたい」というメッセージを生活者に訴えるには絶好の環境と考え、同番組から TVCM を放映します。

TVCM は全 13 篇、すなわち介護の社会化に関わる 13 のテーマで構成されています。なお、TVCM 全 13 篇は、下記キャンペーンサイト内で視聴可能です。

●アテントキャンペーンサイト [elleair.jp/attento/talk/](http://elleair.jp/attento/talk/)

今回 TVCM 内において「#常識をはきかえよう」と SNS 向けハッシュタグの告知をしています。大人用紙おむつに対して抱いているそれまでの自身の常識を捉えなおしたり、思いなおしたりといった「新しい自分の思いを表現できる場」を Twitter などにもご用意しました。アテントは、あらゆる世代の方がこれからの介護と社会の関わりを当たり前のこととして語れる社会を目指します。

■『アテント 誰よりいちばん篇 30秒』篇 (30秒) ストーリーボード

---



●草薙さん セリフ：

誰よりいちばん  
近くにいる  
誰よりいちばん  
いつも一緒に  
誰よりいちばん  
長く過ごして  
自分の人生に最後  
まで  
寄り添ってくれる  
存在って  
何だと思います？



●草薙さん NA  
もっといいパンツになる  
アテント

## 5. 撮影エピソード

### ◇スタッフ一同、アテントのパンツ着用で草薙さんをお出迎え

監督やプロデューサーをはじめとする制作チームも、アテントのパンツ着用という正装で臨んだ今回の収録。監督、スタッフとの顔合わせの際、そのことを草薙さんに伝えると、「僕も今はしていますが、とっても快適です」「はいていること、忘れちゃう」「これでライブしてもいいかも？」と笑顔でコメントしていました。

### ◇セリフには草薙さんの想いも反映

今回撮影する 13 本の CM は、撮影前に草薙さんと企画打ち合わせを開き、草薙さん自身の高齢化社会やおむつへの想いを聞いてセリフに反映。台本どおりの言葉を話すのではなく、介護という課題や共生社会について一緒に考えていくプランナーとしても CM に参加してもらい、草薙さんご本人として賛同できるメッセージだけを話してもらいました。

### ◇テレビの向こうの一人ひとりに語りかけるような草薙さんの口調

ファーストテイクからまるで友人に話しかけるような、ユーモアある自然な身振りと間合いで話し始めた草薙さん。あまりの絶妙さに監督もカメラマンも「いいですね」の連続。30 秒 13 タイプという異例の本数の多さに加え、カメラマンも監督もこだわることで有名な大御所で、長引くと思われていた撮影も草薙さんのおかげでスムーズに進み、予定終了時間より 3 時間も早く終わりました。

### ◇長ゼリフ用のカンペを「なくて大丈夫」と撤去も……？

「カウントダウン」篇は長いセリフを一気に話すため、スタッフが事前にカンペを用意しましたが、現場で草薙さんから「なくて大丈夫です」という指摘があり、一旦カンペを下げて撮影することに。続く本番は冒頭から順調にカメラに向かって語りかけ、さすがの一発 OK かと思いきや、惜しくも最後のひと言を間違えてしまい NG に。そこで、ちょっと弱気になった(?)草薙さんが、「やっぱりカンペを一回だけ見せてください。一応ね(笑)」とリクエストすると、周りのスタッフから笑いが起こり、現場は和やかな空気に包まれました。

### ◇心からの共感と勉強の成果を活かした自然体の演技

一日中パンツをはいていてくれただけではなく、休憩中もすぐに自分の席に戻って、何度もセリフを反芻したり、パンツの資料を読み込んだりして、想いを込めて撮影に向かってくれた草薙さん。「こだわり」篇の、折りたたんであるパンツを広げて、手でさわったり、その特長を紹介するシーンでは、耳に近づけ、「紙なのに、カサカサという音がしないんだ」と、自然体の演技で、見事 OK テイクを獲得していました。また、どのメッセージに対しても、「本当にそうですよね」「これからの日本の未来にとって、大切な役をありがとうございます」と何度も頷きながら、撮影を終えてくれました。

### ◇キレキレのダンスを踊りながらはいているパンツの感想をコメント

「パンツの歴史」篇の撮影中、即興で踊ってほしい、という監督の無茶振りにも、即、オリジナルの振り付けで応えてくれた草薙さん。監督が「さすが」と唸るほどチャーミングなダンスを披露してくれたため、急きょセリフがない踊りだけのカットを長回しにする展開も。さらには「何の踊りだ、これは？」と、アドリブで踊っている自分にツッコミを入れて、スタッフも大笑い。現場ではその直後、このダンスを「アテントダンス」と命名

していました。ちなみに、踊りの最中も草薙さんのはいているスリムなズボンに、浮き出るパンツの線は一切なし。さらには「フィット感がすごい」「はいているのか、はいていないのかわからないのがウリですもんね」「軽いな」「本当に（はいていることを）忘れちゃう」などと、リアルな感想を連発していました。

### ◇最近生まれたばかりの愛犬トークにメロメロ！

「CMの限界」篇で、最近生まれたフレンチブルのワンちゃんの話になると、すっかりデレデレになっていた草薙さん。「かわいいんだ、これが」「マーベラス！」と、我が家の新しい家族を思いやる場面がありました。

## 6. 地域共生社会に向けて以前より取り組んでいる活動

当社は地域共生社会の実現に向け、既に3つの活動に取り組んでいます。

### 1) 医療介護関係者専用 SNS メディカルケアステーションへの 大人用紙おむつの情報提供

地域包括ケアネットワークにおいて、多職種連携のために活用されているコミュニケーションツールに対し、大人用紙おむつに関わる総合的な情報提供を行っています。

### 2) 「がんばらない介護生活を考える会」活動支援

一人ひとりの状況や環境に合わせて、社会的なサービスや役に立つ情報を上手に利用しながら、精神的にゆとりのある介護生活を送るという「がんばらない介護生活」実現を目指す活動を支援しています。

### 3) 認知症サポーターキャラバン

2025年に65歳以上の人の5人に1人が認知症になるといわれています。地域で認知症の方を支えることが必要になると見込まれるため、地域で安心して認知症の方を支える取り組みを支援しています。



アテントは「かくさないパンツになろう」の想いを提言していくことで、世代を超え「介護の社会化」に向けた活動と地域共生社会の実現に取り組みます。